地域新聞 みあき

第20号

地域新聞みあき製作委員会
令和5年10月1日　発行
連絡先 info.miaki@gmail.com
公式HP https://www.miaki.org

竹ランタンとホタル

（文責）原田　浩明

竹ランタン作り後半戦

今回で5回目となるホタル観賞会。今年は、伊予市上吾川地区で活動する団体『いよあかり』さんご協力の下、竹ランタン作りを行い、そこで作ったランタンを持って、ホタルを観賞するという趣向で開催。参加された住民の皆さんは、手渡された竹に、型紙に沿ってドリルで穴をあけ、LEDライトや持ち手のヒモを付けるなどして、散策時に足元を照らすランタンを完成させていました。

材料の竹は、三秋の放置竹林より伐採したものを使い、地域資源を有効活用。竹から漏れる柔らかい光が、沿道を優しく照らしていました。

ドリルで穴をあける作業

参加されて皆さんで記念撮影

お楽しみ抽せん会にて(特賞)

作った竹ランタンをもって散策

第13回わくわく体験ディキャンプ

（文責）愛媛県V・Y・S連合協議会　谷本　和之

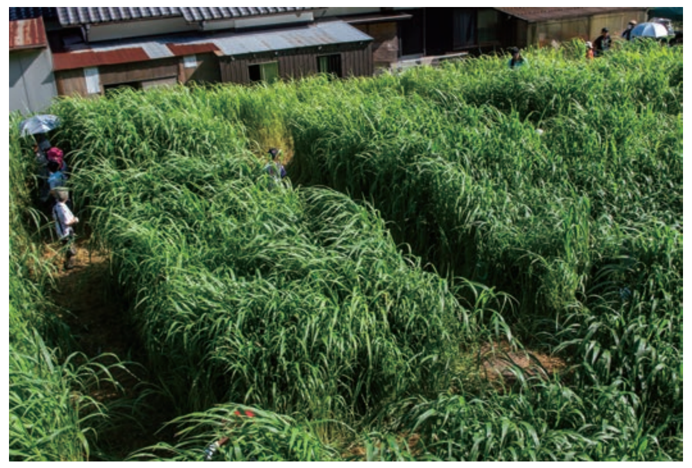
8月19日に西願寺で第13回わくわく体験ディキャンプを実施しました。県内外の小学1年生から中学1年生までの総勢20名の子ども達が参加し、楽しい野外活動を経験しました。午前中に集まり、開会式の後、参加者でチームを組み、ゲーム大会で競争しながら親睦を深めました。その後、座禅体験を行いお寺ならではの体験をしました。お昼ご飯のあとは、三秋の竹を使用したクラフトで、簡単竹の灯籠づくりをしました。なかなか普段の生活では竹に触れる機会がなく、みんな新鮮な気持ちで作業に取り組むことができました。

休憩の後、オリエンテーリングとして畑に作成した植物迷路とキュウリ収穫体験を行いました。どちらも初めての体験でみんなきらきらした表情で参加していました。すべてのプログラムが終わり最後にみんな笑顔の集合写真を撮ることができました。

キュウリの収穫体験を行う子ども達

竹あかりとホタル

青空とレンコン畑


植物(ソルゴー)迷路

レンコン花、今年もきれいに咲きました

（文責）原田　浩明

8月上旬、今年も4月に植え付けたレンコン畑に大輪の花が咲き誇っていました。植え付け面積が昨年より約2倍になっているため、その数も圧巻。

今年の猛暑は、レンコンの成長に大きくプラスに働いているとのこと。葉も例年以上に大きく育っているので、秋の収穫会でどんな立派なレンコンが掘り出されるか、今から非常に楽しみです。

レンコンの花

読者プレゼントコーナー

～夏野菜に関するクイズ～

三秋地区では、春から夏にかけ、畑でナス科の果菜類の野菜をよく見かけます。

Q.ナス科の夏野菜の代表であるナス・ピーマン・ミニトマトの花と実はどれですか。

A

ア

B

イ

C

ウ

応募方法

①クイズの答え　各野菜の花・実の組み合わせをお答えください。
例：ナスー(花A～C)（実ア～ウ）　②住所③氏名④年令⑤本紙の感想（どの記事が良かったか)などを明記の上、郵便ハガキ・Eメール・公式HPの応募フォーム（左記のQRコードからアクセス)のいずれかにてご応募ください。正解者の中から抽選で1名の方に図書カード５００円分をプレゼントいたします。

応募フォームこちら

宛先　〒799-3124　伊予市三秋甲２７１－２
地域新聞みあき事務局　宛

Eメール　info.miaki@gmail.com

応募締切　2024年1月8日（月）必着

当選発表　本紙第21号にて

※ご応募いただいた皆様の個人情報は事務局にて厳重に管理し、プレゼントの発送及び当事務局からのお知らせ以外の目的では使用いたしません。

第19号のクイズの答えと解説

答え　**①おさんぽなんよ号-（A）②鬼列車-（C）③すまいるえきちゃん号-（B）**

解説①おさんぽなんよ号
２０１６年２月２１日より運行
オレンジとグリーンのツートン「みきゃん」や「にゃんよ」など、南予地域のキャラクターがいっぱい

②鬼列車
２０２１年７月４日より運行
黒いボディー　鬼北町の「鬼のまちづくり」鬼王丸を生かしたデザイン

③すまいるえきちゃん号
正式には、しまんと開運汽車・すまいるえきちゃん号
２０２２年１月２９日より運行
黄色いボディー

ＪＲ四国　Yodosen FunFun Trains 参考

これらのラッピング車両は、どの時間帯で運用されるかわかりません。遇うことができたらいいですね。

第19号の当選者は、残念ながらいませんでした。

みあき図書館

（文責・岡田　有利子）

『あめだま』

ペク・ヒナ（作）長谷川義史（訳）ブロンズ新社

不思議な絵本です。文房具屋で主人公の少年が見つけたのは、６つの「あめだま」。１つ食べると、どこからか声が聞こえてきた。どうも、部屋の中にあるソファの声らしい……。もう一つ食べると、今度は飼い犬の声が聞こえてきた。誰しも、ペットの声が聞こえたらいいなと思うことはありますが……。どうやらこの「あめだま」は、普段は聞けない声が聞こえてくる、不思議な「あめだま」らしいのです。

普段聞けない声は、モノやペットの声に限りません。私はこの中に登場するお父さんのページに、心をぎゅっとつかまれました。それは、お父さんの心の声。親として、私も痛いほどわかります。

ページにも工夫が凝らされています。平面の絵ではなく、登場人物は立体です。アニメーターでもあった韓国人の作者は、アニメ製作の技術も生かし、ユニークで深みのある絵本を作っています。登場人物の豊かな表情、絵本作家長谷川義史さんによる大阪弁の訳も、あたたかみを伝えてくれます。

６つの「あめだま」を通して、自分が愛されていることを知る主人公。三秋集会所の桜の木は、今年も紅葉しているでしょうか。大きな桜の木が赤やオレンジに染まる。今年はその下で、耳をすませてみたいと思います。もしかしたら、何かが聞こえてくるかもしれません。普段は聞けない声がある。その声に思いをはせてみませんか。

うちの家族を紹介します

（文責・日山　貞治）

No.11 助田健二さんの観賞魚「キューバンガー」

種類：キューバに生息するガーパイクの人気種

特徴：細長いオリーブグリーンの体色と、突出した細長い口先はガーパイクの中で、一番幅広い。

いつから：10年くらい前から

飼育するきっかけ：もともと動物や魚などの生き物が好きで、訪れた熱帯魚屋さんで見かけ、かっこいい姿にあこがれました。

飼育：近年、ガーは体が大きくなり長寿である事から、飼育放棄によるによる河川への放流が相次ぎました。現在は、特定外来生物に指定され、環境省への飼育許可の申請が必要です。また、飼育に規制がかかっており、販売や譲渡は一切禁止、入手・購入する方法はありません。ニュースでも最近、動物や植物などの外来種や絶滅危惧種の問題がとりざたされています。皆さんも、ペットなどの生き物を飼い始めたら、野外などに放棄せず、最後まで面倒見ることが、飼い主のマナーだと思います。

おしらせ

公式 Instagram
miakinews

皆さんのお家に古い写真が眠っていませんか？昔の風景やお祭り事、三秋に関する昔の写真がございましたらご連絡ください。また、その他の投稿・情報・写真も随時お待ちしております。★みあきの〇〇〇　★うちの家族を紹介します　etc・・・。自薦他薦問いません。お近くの当新聞編集委員もしくは、メールにてご連絡下さい。
info.miaki@gmail.com

メールアドレス QR

編　集　後　記

地域の皆さま・読者の皆さま・記事作成に関わって頂いた多くの皆さんのご支援・ご協力のおかげで、本紙は20号目を発行することが出来ました。深く感謝申し上げます。今回、20号の節目を記念して、創刊号からの内容を１冊にまとめた冊子を近く製作する予定です。三秋地区の記録誌としてお役に立てればと考えておりますので、宜しくお願いします。

スリムな黒いトンボ

（文責）日山　貞治

黒い羽が特徴のハグロトンボ

7月中旬から8月上旬にかけて、城ヶ端地区の三秋川周辺で、黒いトンボが見られます。黒いトンボは、ハグロトンボで別名ホソホソトンボとも呼ばれています。

羽は、普通のトンボのような透明でなく真っ黒です。胴体は、とても細長くスリムです。羽ばたき方も他のトンボと違って、蝶のようにひらひらと舞うようにゆっくりと飛びます。留まって羽を休めるときも、蝶のように4枚の羽を重ねて閉じた状態で休みます。

ハグロトンボは、真っ黒い姿から、不吉と思われがちですが、実はとても幸運なんですよ。昔から、黒いトンボは、神様の遣いとして大切にされ、縁起が良いとされています。

雄は、胴体の部分がエメラルドグリーンのように光沢がありとてもきれいです。雌は、全体が黒い色をしています。

トンボは、田んぼや畑の害虫を食べてくれる益虫です。そっと見守ってあげましょう。

三秋信号所跡

（文責）日山　貞治

信号所跡

全体黒っぽいのが特徴のメス

胴体のエメラルドグリーンが特徴のオス

かつて、日本国有鉄道と呼ばれていた国鉄の予讃本線（現在JR四国の予讃線）の信号場で、使用されていた時は、構内には2線ありましたが、現在は1番線のみが使用され2番線は取り外され草木に覆われています。1963年（昭和38）2月1日に高野川駅の開業に伴い開設され、1986年（昭和61）3月3日に内子経由の内山線（山廻り）の開通に伴う海廻り線の列車数の減少により廃止されました。ここでは、列車の行き違いのためのタブレットの交換が行われていました。

現在の状況は、ホームと詰所だった建物の基礎部分だけが残っているのみです。

昭和61年新線開業時の記念切符

信号所廃線部跡

三秋住民とふれあう大学生

（文責）原田　浩明

お堂の前で住民から歴史について聞く学生達

畑で住民にインタビューする学生達

6月17、18日の2日間にわたって、愛媛大学社会共創学部の学生約20人が、大学の実習で、三秋地区に訪れ、地域活動の基礎的な方法を理解・習得することを目的に活動を行いました。4，5人のグループに分かれ、各グループが地区内を散策、時に、住民の方からお話を伺いながら、「三秋の歴史を踏まえ、三秋の未来を考える」という課題に取り組んでいました。

10月に2回目を実施する予定と伺っています。課題に対して、どのような結論を導き出すのか、今後の活動に注目していきたいと思います。

三秋フェア2023

（文責）原田　浩明

2日間の活動を終えての成果発表

玉井住職から話を聞く学生達

毎年恒例の「三秋フェア」が、今年も8月13日に『手作り交流市場町家』にて、開催されました。本イベントの定番となったキュウリの詰め放題や三秋産農産物の直売が行われ、多くの市民の皆さんが訪れていました。また今年は、6月の「ホタル観賞会」で作った竹あかりやレンコンの花も展示し、三秋をPR。中には、「昨年も来ました」という市民の方もいて、このイベントが少しずつではありますが、浸透してきているのだと感じました。

竹あかりを展示

竹あかりを展示

レンコンの花生けてみました

キュウリの詰め放題

麦秋とユスラウメ

（文責）稲多　勝利

ユスラウメ

私は、5年くらい前に、庭にユスラウメ（以下ユスラ）を植えました。今年は、木も成長し、たくさんの赤い実が付きました。昔は、近所のどの家にもユスラがあって、赤い実が生ると、もらって食べたものです。お菓子やスイーツが豊富になかった時代、これが子どものおやつでした。

なぜ「麦秋」を取り上げたかと言いますと、昔は、どの農家でも麦を作っていました。そして、麦が黄金色に熟れてくると、休みの日には麦刈り、麦こぎのお手伝いをしたものです。そして、その時の休憩の楽しみが、ユスラだったのです。女の子は、麦わらを編んで作った「カゴ」に赤いユスラの実をいっぱい入れていました。経験のある人は、お分かりでしょうが、麦の収穫のお手伝いは、「ハシカイ（※身体が痛痒くなることの方言）」ものです。でも、それを忘れさせてくれるくらい、ユスラは美味しく感じました。

今は、コンバインによる麦の収穫作業ですが、黄金色に実った麦を見ると、60年以上前の昔の思い出が蘇ってきます。

端の測量標跡

（文責）日山　貞治

基準点

準拠点

端集会所の近くにある、コンクリート製の水田畦畔に、記録的な渇水の場合、中予分水事業として、肱川水系から明神山を貫通するパイプラインを設置し、松山地域に水を送る計画がありました。

そのため、平成6年1月に中予広域水道企業団（当時の中予地域の3市5町）が組織され、測量を実施した痕跡の2級基準点の測量標が残されています。

2級基準点は、真鍮製で直径8㎝です。501の番号が刻印され、中予広域水道企業団の文字もあります。反対側の畑の畦畔上にも、準拠点のステンレス製の測量鋲（直径5㎝）が打たれています。中予広域水道企業団は、平成20年3月31日をもって解散されています。

水之明神社の石灯籠

（文責）日山　貞治

灯籠右

灯籠は、もともと仏前に供える灯明台として中国より仏教とともに伝わったもので、仏堂の前に一基のみ建立していました。平安時代以降、神社にも建てられるようになり、室町時代以降は、左右に一対建てられるようになりました。一般的な構造は、上から宝珠・笠・火袋・中台・竿・基礎の六部構造になっています。

奉納されている灯籠は、一般的な春日灯籠で、高さは六尺半（一ｍ九十五㎝）の花崗岩製です。中台の側面が、それぞれ格狭間と菱形紋になっています。拝殿に向かって右側の竿の部分に昭和三十三年（一九五八）高岡浅吉、世話人仙波米太郎。左側の竿には当字中とあります。近くには、それ以前にあった春日灯籠の残欠が置かれています。

コウモリ洞と砥部焼

（文責）原田　浩明

本紙にて以前（第2、5号）取り上げたコウモリ洞について、新たな情報をキャッチしました。これまで、コウモリが生息し、独特な雰囲気を醸し出している洞窟、砥部焼の開祖「杉野丈助」らによって、江戸時代中期に釉石（陶磁器の釉薬の原料）が発見された場所であるということで紹介しました。そんな折、このコウモリ洞を詳しく調査した報告書を入手。早速、報告書の執筆者である十亀幸雄さんに会いに行き、内容について伺ってきました。

十亀さんによると、以前から、文献等で三秋に釉石が採掘されていたが、正確な場所が分からず、手がかりを探していたところ、本紙でこの洞窟を取り上げたことを知ったことがきっかけで、現地調査を開始。コウモリ洞の内部構造を詳しく調べ、報告書にまとめたとのこと。同時期に採掘されたとされる砥部の別の採掘場と類似点が多く見られることから、文献通り、このコウモリ洞が杉野丈助らによって発見された採掘場の可能性が非常に高いそうで、今後、更なる調査が行われ、証拠となる新たな発見があれば、重要文化財に指定しても良いぐらい大変貴重な遺跡であると仰ってました。

これを機に、今後、市の発掘調査が行われ、重要文化財指定へという流れになることを期待したいですね。

参考文献
十亀幸雄2022年「伊予市コウモリ洞釉石採掘遺跡」『遺跡』（159号）遺跡発行会

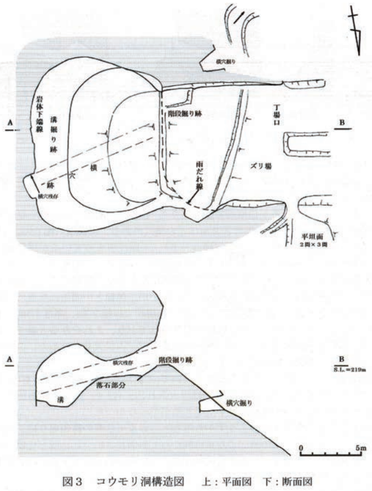


図3　コウモリ洞構造図　上：平面図　下：断面図

「伊予市コウモリ洞釉石採掘遺跡」
2022年『遺跡』（１５９号）より引用

2016年11月に撮影したコウモリ洞

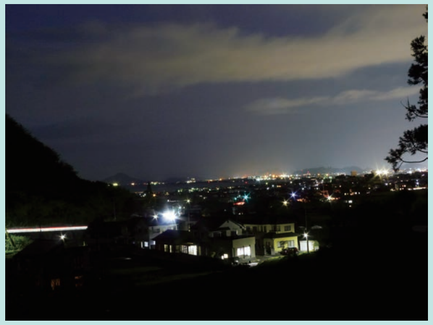
みあき写真館

（写真）日山　貞治

【タイトル】**三秋新池からの夜景**

三秋地区で、伊予市内の町中の風景が見られる場所としては、三秋大池の堤防からや、明神山の中腹、高速道路の跨道橋である三秋橋から見ることができることは、以前『みあき新聞』で紹介しましたが、今回は、大平地区との境にある三秋新池の堤防からの風景を紹介します。

新池からの市内（昼）


新池からの夜景